

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73003	1	後期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	体の仕組みと働き演習 (Anatomy and Physiology Practice)				
担当教員名	高野 海哉				
授業の概要及び到達目標					
<p>【概要】 これまで学んだからだの仕組みと働きに関する知識を基に、対象の身体の状況をアセスメントするための情報収集の手法(フィジカルアセスメント)の基礎を身につける。身体のバイタルサイン測定や肺機能測定など生理学的な測定や観察、また、消化器官の解剖学的な観察を通して、さらに深い解剖生理学的な知識を身につける。</p> <p>【到達目標】 解剖生理学に関する演習・実験・観察に積極的に参加することを通して、人体を科学的にとらえて人体に関する知識を主体的に身に付けることができる。演習後に提出するレポート作成を通して、正常な身体の構造と機能を理解し、その知識を用いて、論理的に考察をすることができる。</p>					
準備学習等					
「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の内容を十分に理解して演習に臨むこと。					
成績評価の方法	期末試験:50% レポートなど提出物:50%				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・配布するレジюме ・高松研・堀内ふき,「NEW 生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理」第2版, 医学映像教育センター, 2009 				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」で用いているテキストや授業レジюме ・島田達生ほか監訳,「ロス&ウィルソン 健康と病気のしくみがわかる解剖生理学」改訂版, 西村書店, 2008 ・片桐康雄ほか監訳,「ヒューマンボディ 原著第3版」, エルゼビアジャパン, 2008 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は授業形式だけでなく、実際に各自もしくはグループメンバーの身体を使って触れたり体験する演習形式で行う。積極的な参加を望みます。 ・質問などは、講義の前後で直接受け付けます。大学のメールでも受け付けます。 ・提出されたレポートの内容が不十分な場合は、修正したうえで再提出を求める場合がある。 ・欠席した場合の補習は行わない。 				

授 業 計 画

【第1回：イントロダクション】

- ・ 演習に関するガイダンスと基本的な解剖生理学的な知識の確認

【第2・3回：人体の構造に関する演習】

- ・ 骨格標本・骨格交連模型・関節模型を用いた演習(組み立てる・動かしてみる・スケッチする)を通して、人体構造の特徴について理解する。

【第4・5回：バイタルサインに関する演習①循環器系】

- ・ 心音の聴取・脈拍の測定・心電図の測定を通して、心臓のポンプ機能に関する特徴(心周期)を理解する。血圧の測定を通して、血圧の特徴について理解する。また、脈拍との連関について理解する。

【第6・7回：バイタルサインに関する演習②呼吸器系】

- ・ パルスオキシメーターを用いた酸素飽和度の測定を通して、呼吸と血液中の酸素飽和度の連関について理解する。また、スパイロメーターを用いた呼吸機能測定により、様々な状況による呼吸運動の変化を理解する。

【第8・9回：バイタルサインに関する演習③循環器系と呼吸器系の連関】

- ・ 運動負荷など、身体に負荷をかけた際のバイタルサインの変化を通して、循環機能と呼吸機能との連関を考察し、特徴を理解する。

【第10～13回：消化器系に関する演習】

- ・ 咀嚼・嚥下の観察を通して、咀嚼運動と嚥下運動に関する特徴について理解する。腸音の聴取を通して、消化管運動の特徴について理解する。

【第14・15回：まとめ】

- ・ 人体模型を用いて、各臓器の立体的な位置関係と機能的な連関について復習する。

期末試験